



日本之吐子 八尾



1710
5

乃之巻
抄七郎

目録之序 又目録



△廣公仁年之巻



世中不親云あり



○親子之挨拶 附

具平二十四巻并
儀之天地乃目録
直在法師が書状并
看病人志分別

日本書子集の直目録

○史婦一乃其云ひつぐし 附

女房乃仲達のう并
陸中名密史

河内通の名所 并

四宗河系新嫁鏡

○爰乃明不此附

兄才志よい中 并

友蓮乃まじり

喘息のほ海あり 并

七念修石乃并

風流大和存子史

親子乃孩扱附

唐人の海

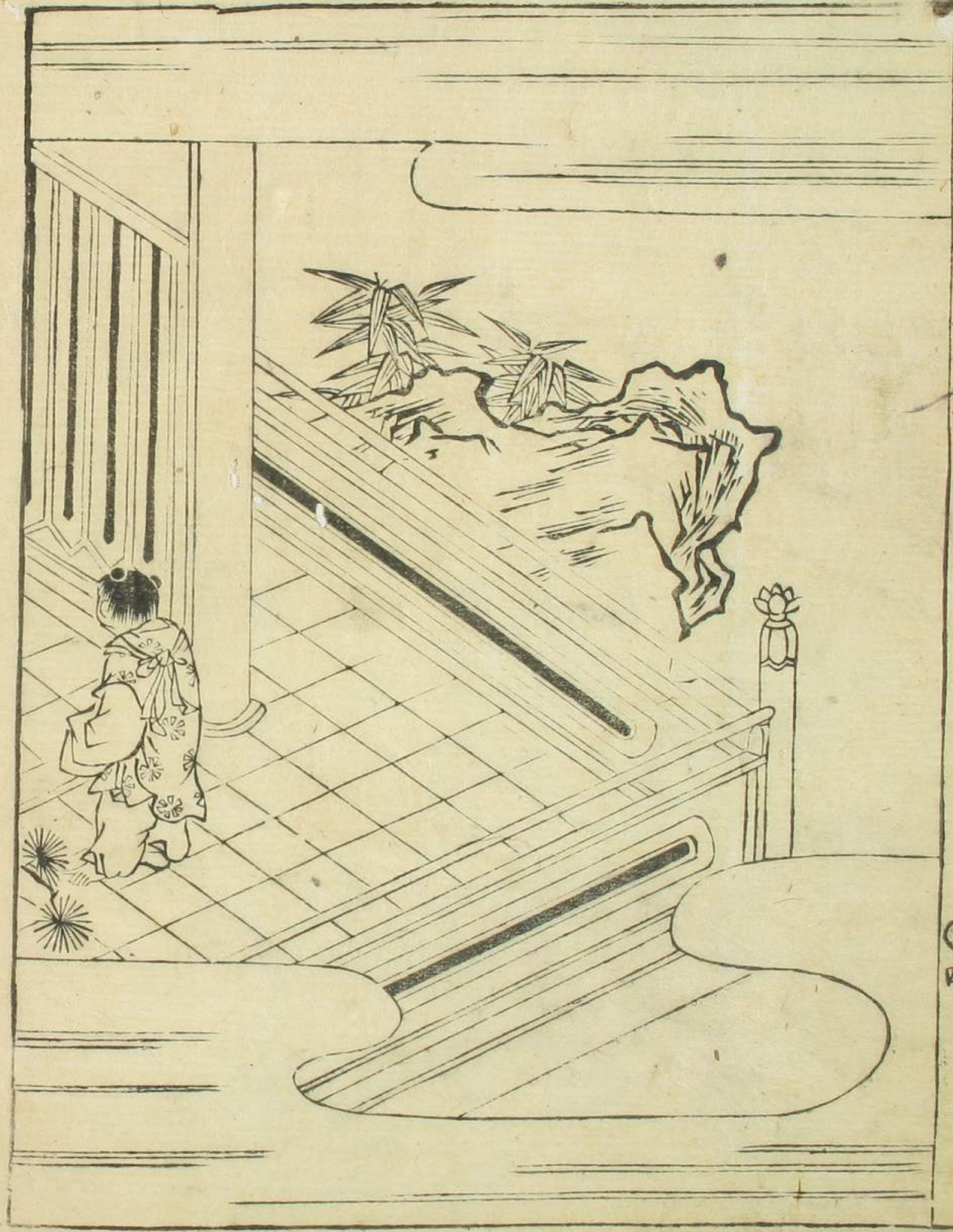
看病のう管



天柱のまじりたるまじり。親を子とて流し。ふる親と
足く猶ほ声とる。人あるやよ及んぞとけふゆき子音。
地を歩けり牛とよむると。思電の心流るるまじり。あふ
乃を法師とて信さる。阿ハ大なる西姓まのまて揃ら
りよを好らる。或阿山よ入て鶴乃離とぬるふ。親鶴深く是
と流し。よあがきて死る。うして。後と別て見らる。たれハ
賜すくお切てあり。と見て別弓切折儀乃と記し。をを

は所と改め一所と并て一生を具せしめ食を女のよしと
様と改めぬ戒行の唐も乃浦迄とて遠きあり一戒もな
き廻るものなりといえんや人のよしとてとや。さき
ば子としてハ世と孝と併せしめ。孝もさばる所あり
人を天地陰陽のれとて形を生れ天地とを形と回を以
てして正よわるる天のそと。是方ありく下よわるる地よ
廻る胎を初るふくむく。南小海あり。昔も骨
ありて堅く移るる。あは山あり。まある人のれを
もめんたる。秋を去る人のれも陰也よりておさび。血を
天地と改め初めハて地と改め新る。是よりして人まはるる

を我の大父母より。人倫の父母ハ小天地より。故よりる志を
たす。父母は徳徳也なり。父母のれとて形とあり。形を
子の形を親の形とせ。故一平とあり。父母の形と
故も同じ。もあら。此命を授けり。命を授けり。命の
よくあり。而右のめり。父とてせり。母とてせり。母と
三人あり。命を授けり。命を授けり。命を授けり。命を授けり。
もあら。命を授けり。命を授けり。命を授けり。命を授けり。
く。業と有り。命を授けり。命を授けり。命を授けり。命を授けり。
もあら。命を授けり。命を授けり。命を授けり。命を授けり。
く。命を授けり。命を授けり。命を授けり。命を授けり。





日本皇子巻の五

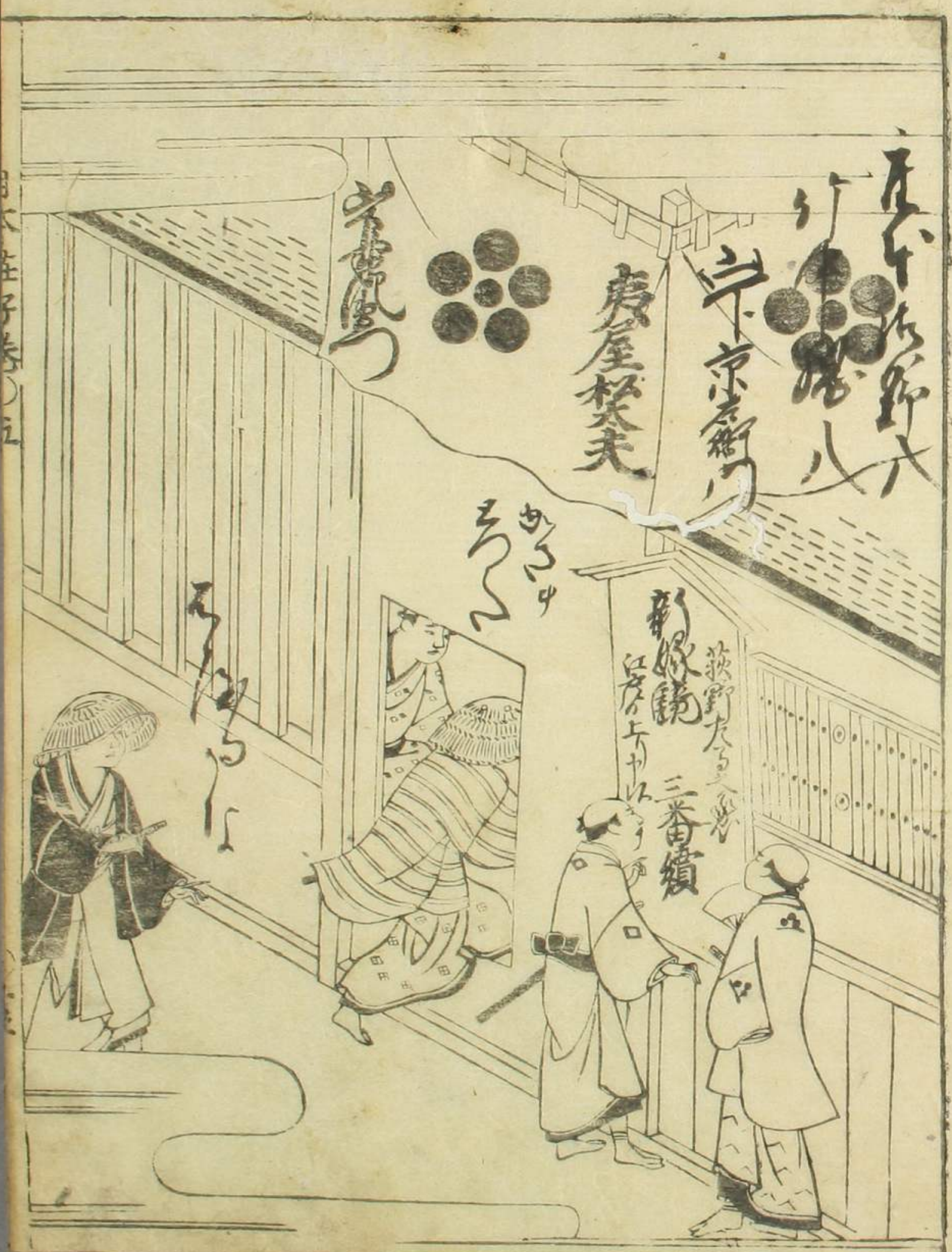
と難立てたがやさんの洞と重^{たか}を重^{かさ}に頼氏^{たのり}がけりして
 己^{おの}あまの死^しの時^{とき}は死^しべうりに子^こをかひゆ^くふあな^うと
 自ら^{みづか}命^{いのち}がかうしてつるを理^{ことわり}あらそ^まてる。面^{おもて}目^めあらは^は決^きせ
 ず。あう一人^{ひと}をこれ科^かわ^らに捕^{とら}むとさうを^と起^{おこ}す。
 け^け指^{さし}も^も握^{にぎ}り^りそれ^{ごと}と刀^{やま}と^と執^と右^{みぎ}の指^{さし}を切^きる。軍^い兵^{へい}共^{ども}集^あま
 り^り頼^{たの}氏^りを^をけり^てま。性^{こころ}を^をど^くち^はし^ま。おせん^とも^もあ^いま^く
 賢^さ治^ぢで^でお^をま^ぬ愛^あと^とて^てい^いな^んだ。その^{その}う^うら^らふ^ふ大^{おほ}指^{さし}も^もた^と
 芳^{よし}か^うし^し。その^{その}と^とお^おと^とそ^そこ^こも^も大^{おほ}指^{さし}も^もた^と。あ^あま^また^たお^おれ^れん^んう^うあ^あ
 う^うら^らび^び。死^しる^る命^{いのち}を^をあ^あな^な子^こに^にけ^けり^りとい^いひ^ひは^はせ^せぬ^ぬ。つ^つあ^ある^るう^うふ^ふの^のく
 教^{しよ}せ^せと^と呼^より^りも^もあ^あ軍^い兵^{へい}共^{ども}大^{おほ}指^{さし}も^もた^と。大^{おほ}指^{さし}も^もた^とあ^あつ^つや^やの^のけ^けら^らに^にが^がら^らと^と

ろとりのひまぐら。かへりく首と打あは。海は三の真女もまじ。
 飛氏が髪も一筋ととのせり女は。著しそて喜しく物じや。
 しか實流が書きた史をせり地をよそ油らぶはまを歌。
 福と減て宰相よまう。よく腐一ふのトんせと。火の物鏡
 してふは祈り。或る史のやを悲しひるふなうそり女
 わりしは史るとりまひよまう。かゞく女に所帯とおて
 き。方小目とくはら。ふを海にまうとだ。人とありまじむ
 ちのや及びも。けしきん物の上まてま。おれおとまをけと
 ぬ。面もちごう柳は海はうらるびさ。ふさゆいありて梅の
 柄は宮れけりごとく。ちさうやをうらふらまひ。か指

庵うくはせられ。あふたりたりてまけらむとまて。ご
 えむし一丸二巻は松のまぐとま。ぐりふゆりんとおれ
 し。おし。うらうら。きんじらしくわんど。おは。お婦のるは
 うさる。女のお入るる。又さうおが女とちとあひ。おし
 あ。あ。ちや。い。ちや。ま。おれとま。じらるく。笑。笑。う。く。ま。お。
 抱て。抱。く。し。と。さ。す。ら。て。ゆ。ら。お。は。作。と。経。男。あり。ち。は。
 とも。梅。乃。立。物。ぞ。ち。力。富。ま。あ。り。く。也。桑。河。原。の。ふ。乃。お。ね。
 金とちて。も。病。よ。う。ら。さ。さ。ま。お。お。自。に。あ。ら。う。ハ。ち。ち。ら。と。う。
 ち。い。ち。ち。ら。む。ち。や。ま。の。ど。く。人。と。お。お。ま。ま。て。と。ま。に。お。か。
 ぐ。ち。ら。ば。一。と。お。お。お。の。ち。ぬ。ち。の。ち。り。紀。の。ち。ち。ち。ち。ち。

の事市小出で。死商をせうせらる。あつらう。やといひ。
 く。是れ又と合を授け。計令の界とさし。すといふぞう。
 おうそ。見まをせう。あふ。吾をまて。まをさす。朋友のふま
 目ド。げら。を儀をのし。たれ。とも。移し。ひ。け。人
 乃。其。無。と。さ。い。け。人。の。其。無。と。な。せ。ば。さ。あ。が。り。賢
 人の。ご。一。酒。を。盡。乃。る。る。ふ。び。ひ。て。辨。人。を。長。悪。の。な。ま。よ
 せ。い。つ。う。朋。友。乃。る。ち。あ。ま。は。位。を。さ。く。ま。さ。い。ば。も。な。ま。ま。て。し。無
 ち。あ。あ。偽。の。ま。い。ば。な。り。て。中。悪。な。る。あ。り。我。ち。も。信。と。せ。ば。
 人。も。亦。信。な。る。べ。し。我。ち。も。偽。と。せ。ば。人。も。亦。偽。な。る。べ。し。
 我。ち。も。疑。と。な。さ。ば。人。も。亦。疑。と。な。る。べ。し。我。ち。も。一。誠。

と。い。て。と。ん。ふ。人。も。う。ご。う。も。扱。の。我。が。位。の。い。ま。ご。ま。さ。る。ぬ。ぬ
 ち。う。と。ら。ひ。方。と。顧。て。い。け。く。偽。べ。し。是。と。朋。友。の。位。と。ハ。P
 かん。と。それ。が。人。乃。ま。り。其。利。欲。と。ん。ご。一。合。の。附。を。中。無。を
 此。比。乃。も。ご。ご。も。扱。得。の。ら。と。附。を。あ。て。敵。と。な。る。あ。り。是。と
 小人。の。交。り。と。い。ふ。者。も。れ。交。り。を。私。欲。を。ま。し。礼。義。の。信。と
 い。て。う。ご。う。も。あ。り。兼。之。一。く。相。あ。ま。し。ひ。も。朋。友。の。乃。と。ち。か。
 世。乃。は。あ。ま。よ。ふ。な。あ。り。小人。は。な。る。一。や。い。つ。う。世。小。う。ト。り
 ぬ。は。え。な。と。扱。ふ。べ。と。う。ま。さ。く。あ。る。も。人。も。我。滿。邪。欲。多。小
 う。う。て。あ。ま。よ。の。あ。り。そ。の。根。あ。り。正。面。を。新。し。と。あ。り
 ち。ま。ご。ご。も。辨。し。針。と。包。と。い。つ。う。後。の。ご。く。は。い。と。移。し。



て。海へ見せし記さしおきておろししとて能
 敵のごく相争ひ。我が好まなへき。りるるの場とわしと
 海よおろし。おろしとく。あつらひ。後し。とらふ。と。あふ。侍
 二人あり。一人は中臣平治といひて二十四。一人は播磨
 系とて又十五。侍なり。あつらひ。侍の吏とせし。うし。く。
 後より甲したく。初る。あつらひ。おろし。あつらひ。あつらひ。
 一人の侍。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。
 一。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。
 後。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。
 支配なる。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。あつらひ。
 京都新門
 唐屋松夫
 新屋鏡
 三番續

の内みちの御りあをらん折く南に探世界の又乃回
 御は初年の實をさる可なり。又ハ西に御命とよま
 つて九る揚屋乃皇君のぞ。うそればとひくま
 ち。とよまゆへ。とよまゆへ。とよまゆへ。とよまゆへ。
 而御社の傳令と出ま。御子の推起。いふまあり
 うま。とよまゆへ。とよまゆへ。とよまゆへ。とよまゆへ。
 あとと次。とよまゆへ。とよまゆへ。とよまゆへ。とよまゆへ。
 比ち七月十ある。揚屋二二のふへ。とよまゆへ。とよまゆへ。
 御社のう。引ち。御命。とよまゆへ。とよまゆへ。とよまゆへ。
 十何段。并御社の返り。御命。とよまゆへ。とよまゆへ。とよまゆへ。

およ。とよまゆへ。とよまゆへ。とよまゆへ。とよまゆへ。
 一人大小威。とよまゆへ。とよまゆへ。とよまゆへ。とよまゆへ。
 休。とよまゆへ。とよまゆへ。とよまゆへ。とよまゆへ。
 慶。とよまゆへ。とよまゆへ。とよまゆへ。とよまゆへ。
 年。とよまゆへ。とよまゆへ。とよまゆへ。とよまゆへ。
 う。とよまゆへ。とよまゆへ。とよまゆへ。とよまゆへ。
 およ。とよまゆへ。とよまゆへ。とよまゆへ。とよまゆへ。
 祇。とよまゆへ。とよまゆへ。とよまゆへ。とよまゆへ。
 と。とよまゆへ。とよまゆへ。とよまゆへ。とよまゆへ。
 御。とよまゆへ。とよまゆへ。とよまゆへ。とよまゆへ。

をりる扇目きひのいやらしは公人死乃掩る。下は
れ徳像乃達磨くをさる。目ト卒の交の比とひる
る者遠ゆく。後鼻を扇の管ふやく。徳は卒次
又胸とゆる。病目は芥よと塗る。扇に何れふかひる
きハ一魚神の極よとば。伊んとあへども。六人る此に居
るきハ流えよ支多く。おととて立通る。流小
て想者求。疫病の神で。敵打らる。比して。徳ひの肩と
と算。うんはの徳は。くそをろ。一まき。徳は卒次
去。大坂初乃甲。西南に。西よと海。く。ま。と。ま。金
徳を。公。依。流。の。水。の。く。く。小。を。後。大。分。引。負。と。い。し。

此後とをる。うとこころなる。きハ。山。物。と。は。生。ある。一。般
作。の。之。意。よ。る。そ。も。切。徳。及。具。多。持。た。お。し。や。と。座
ぶ。麻。乃。潤。骨。海。下。北。北。持。た。人。も。あ。ら。る。あ。よ。つ。り。し
よ。卒。次。を。求。と。し。ふ。若。人。母。河。と。さ。ら。め。く。あ。見。世。を。求。ぬ。
と。あ。く。六。徳。台。ま。ま。ぬ。卒。次。と。ち。所。か。と。水。と。單。と。れ。ど
く。弊。き。し。や。ゆ。よ。し。と。彼。を。ふ。あ。よ。は。伊。徳。持。と。誰。さ。る。と。て。
多。か。り。里。の。路。幅。よ。た。ら。う。首。で。は。は。さ。る。ぬ。お。よ。ぬ。先。き
と。り。あ。ら。し。あ。ら。ん。あ。人。面。去。卒。次。よ。徳。加。清。と。下。さ。れ
る。者。云。卒。大。坂。表。ゆ。く。役。者。を。尾。好。徳。也。知。定。街。に。あ
る。く。伊。徳。い。し。し。や。ふ。ら。る。あ。その。伊。徳。表。中。う。て。武。十

日本書紀卷之五

石下されしよわらぢや おとす いろもそよぢや えき
とんあしたしとちこの作らし通でまぬ候乃侍入
みえしけく えき とま えき いろ えき せふ えき ち えき ち えき ち えき ち えき ち
や平次が張役と初ハ。去年のまゑ乃りよ。秋ハ伊人
りし伊人乃放く。まゝく我ふも昔よ立合侍為申乃初
是吹雪のこまて一重と侍さく時白は相候。伊人付と下
さきついでちないう。細く小な平治者乃引負わは。この時の
陰候よしせは是非をハふため。とて一掃首尾好候て。高
去侍候者人と作候さきつとよ。とて又右とあて何乃
控候よまきとせぬ。一掃指とさきつとあき。傍者の礼ハ

似合じらぬ赤や多飲より。又心引負は極まばとて。てび初
まは清候し。皆候御判さうてせは法候。其に若くは細ら
とよ。是れは嬉あて。おまきとさめといふ。物あへむいあ程
人の産候と。狸よとらといふ物や。向はせんああ候と。ば
さあ初めとせあ付られ。家やを汗と流し。とね二とといふ
ゆたうり。まゝ一人を。おやとらまい。ゆたうは。きゆり水
と海とつと。若葉とよ。いろもそよぢや。とてちとて。これ
君も。これと云の葉とて。まゝは流り。まゝは流り。まゝは流り。
是は伊人乃り。まゝは流り。まゝは流り。まゝは流り。まゝは流り。
まゝは流り。まゝは流り。まゝは流り。まゝは流り。まゝは流り。

夫人も知事なり。我は時をうしひて食後自ら六部一
 ちて一見も味をまじふにまじれり。後漢の孫
 一りありて孫連と名けて。一口の物をも食合は
 申合交りまらに。孫連は孫大をよめて。孫の孫
 一て孫ら七片肩強て西らて道まて孫連をたの
 一ま布あて切御ま孫子く見付け。るより下て孫連
 一がと孫連をえりて。やうやう。あまやかとをま
 一ちて出し。小を孫連にけり。何れも合カして角
 一と。背小かろくぬわのう。是とて信なむはの
 一る物なき。そま一人乃淨る淨る。孫大乃れ孫連
 一



濡れ声。もろくと耳よみきこばらうくやうくと眼ぞる
 上。うきごぞいおのりくわうとさるれば、ほろり 重くやと
 疑し。白糸河系此石乃と。只ちりきうと。唐をわがうて。
 落舟する作極。是何人ぞや。浮帝がたきこのそかたり。
 名新しうく。とこそ一や此まひとそき。透脱乃ほろり
 又部らうと。兒弟より此おわう。袿髪又髪末者かん
 見うらと。天竺此唐耶又人者。白髪さうらう。眼髪よ入と見
 て。根子と出し。商人の白髪を。髪を防りて。口をくち
 髪と。髪は度大子とさうあふ。是ハハ袿髪又髪末者かん
 此岩の目筋と人地獄中りして。透在帝小をさあふと。

ねらふのしあふよむ甲斐さああがらう

さあ〜とあるあう〜これ何
 中へ〜とあるあう〜これ何
 鷹志を又とあるい。神を人々あわす。仙居年を儀記。そを
 ても傍〜よとあるまい。あゆむとあるまい。

京楚屋町誓願寺下町
 板元 八文字屋八左衛門

風流扇軍 <small>五冊</small>	雷神不動櫻 <small>五冊</small>	花楓釵本地 <small>五冊</small>
北條時頼二女櫻 <small>五冊</small>	薄雪音羽滝 <small>五冊</small>	小野白玄釣舟 <small>五冊</small>
光原氏御勢 <small>五冊</small>	風流日本狂子 <small>五冊</small>	頼信疏軍記 <small>五冊</small>
甚悪身相 <small>五冊</small>	契情太平記 <small>五冊</small>	道成寺波神 <small>五冊</small>
三浦之助兵衛 <small>五冊</small>	系圖蝦夷刺 <small>五冊</small>	優源平歌 <small>五冊</small>
石大将後倉裏記 <small>五冊</small>	弓張日曙櫻 <small>五冊</small>	夕霧有馬松 <small>五冊</small>
風流神代卷 <small>五冊</small>	曾呂利沖伽物 <small>五冊</small>	百合稚錦鴛 <small>五冊</small>
兜燈甲州軍記 <small>五冊</small>	阿漕浦三巴 <small>五冊</small>	壇浦女見堂 <small>五冊</small>
曠太平記 <small>五冊</small>	今者出世扇 <small>五冊</small>	歳徳五世松 <small>五冊</small>

精軍法鑑標

五冊

知進法鑑標

五冊

風流川中鴻

五冊

教訓私修育

五冊

曾根崎情鶴

五冊

榮記金寶谷

五冊

本田免後集

五冊

今昔諸國新

五冊

賴政現在鶴

五冊

運澤深鑑鑑

五冊

物部守屋錦筆

五冊

沖伽太平記

五冊

風流沖伽曾我

五冊

都鳥妻衣笛

五冊

當世司形家

五冊

風流東鑑鑑

五冊

那智沖伽曾我

五冊

教訓修承形氣

五冊

賴朝二代鎌倉記

五冊

平護初冠女

五冊

當世孫者形氣

五冊

西海太平記

五冊

高砂大鴻臺

五冊

浮在學者形氣

五冊

中將始末系後

五冊

花色紙發詞

五冊

南本美乃日記

五冊

今川一聯記

五冊

風流軍配團

五冊

世間長者形氣

五冊

風流庭訓律本

五冊

互先易盤惠信

五冊

時勢富貴形氣

五冊

風流治賴政

五冊

歌行脚懷硯

五冊

世間顯貴形氣

五冊

於國奇舞妓

五冊

清明白狐玉

五冊

今昔自傳形氣

五冊

風流東大全

五冊

當流曾我高經

五冊

長安西宮發

五冊

真洲軍記

五冊

日本傾性始

五冊

忠孝壽門松

五冊

長生伏木隱

五冊

當世信玄記

五冊

丹波信長同鑑

五冊

萬福宮書在

五冊

百姓盛衰記

五冊

武松雙級巴

五冊

今昔九重櫻

五冊

商人世帯茶

五冊

忠盛祇園標

五冊

女情達菜山 五冊	女曾我兄弟鏡 五冊	於都係系圖 五冊	陽炎日高川 五冊	女將門七人化粧 五冊	群村五 五冊	軍演圖 五冊	風流榮花形 五冊	敦盛源平枕 五冊	村久九証記 五冊	花鏡清水詣 五冊	大内妻友家 五冊	出世權流者語 五冊	節書二面鏡 五冊	彩色歌相模 五冊	本朝會誓山 五冊	女非人綴錦 五冊	盛久側柏葉 五冊	名玉女舞落 五冊	記錄曾我 五冊	十示町囃書衣 五冊	楠二代仕士 五冊	真盛曲輪錦 五冊	昔女化粧櫻 五冊	清伽平家 五冊	教訓廓引絡 五冊	義貞龜軍配 五冊
-------------	--------------	-------------	-------------	---------------	-----------	-----------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	--------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	------------	--------------	-------------	-------------	-------------	------------	-------------	-------------

當在嶽北月物 五冊	起揚小法師 五冊	世間化物集 五冊	齋齋集 五冊
--------------	-------------	-------------	-----------

明和四丁亥年 正月

板元 賣所 日

大坂糸橋南三丁目角
 外屋五右衛門
 京寺町通神小橋下ル
 金屋治助
 江戸日本橋通三丁目
 吉文字屋治助

二
百

